

桜と遊ぶ、桜に学ぶ

小金湯 さくらの森

～開園までのあゆみ



編集・発行 定山溪浴線町内会連絡協議会



旧定鉄滝の沢駅跡の二美桜（平成25年撮影）



編集・発行 定山溪浴線町内会連絡協議会

～目次～

発刊に当たって 定山溪沿線町内会連絡協議会会長 福士昭夫	1
小金湯さくらの森を空から眺める	2
小金湯さくらの森マップ (イメージ図)	3
小金湯さくらの森 開園までのあゆみ	4
略年表	9
桜は青春そのもの 札幌商工会議所創立110周年記念特別委員会委員長 株式会社プロジェクト・フォー取締役会長 中田輝夫さん	10
寄稿 小金湯さくらの森進化論 札幌商工会議所・小金湯さくらの森募金協力会 実行委員長 第一建興江島株式会社 代表取締役会長 高荷 明さん	12
さくらの森を楽しむ	13
小金湯の魅力、広がる将来への夢	16
小金湯さくらの森をいい森、いい場所に 小金湯町内会長 坂本秀一さん ～小金湯の歴史を語る～	18
小金湯さくらの森ガイド	20

注記

- 1 「桜」「さくら」「サクラ」は適宜使い分けました
- 2 文中の敬称を省略した場合があります
- 3 肩書は平成28年3月末現在です

表紙の写真は小金湯さくらの森から国道方向への眺望

発刊に当たって



定山溪沿線町内会連絡協議会会長
福士 昭夫

このたび「小金湯さくらの森」開園に当たり、今日この日を迎えるに至った経緯を顧みつつ、関係各位に心から深く感謝を申し上げる次第でございます。思い起こせば平成七年に札幌市農業センターが現地より東区サッポロさくらとらんどに移転し、その後、沿線協として現地の有効活用を札幌市に要望し、長い道のりでしたが、一歩ずつ前進したのが運動の始まりでもありました。

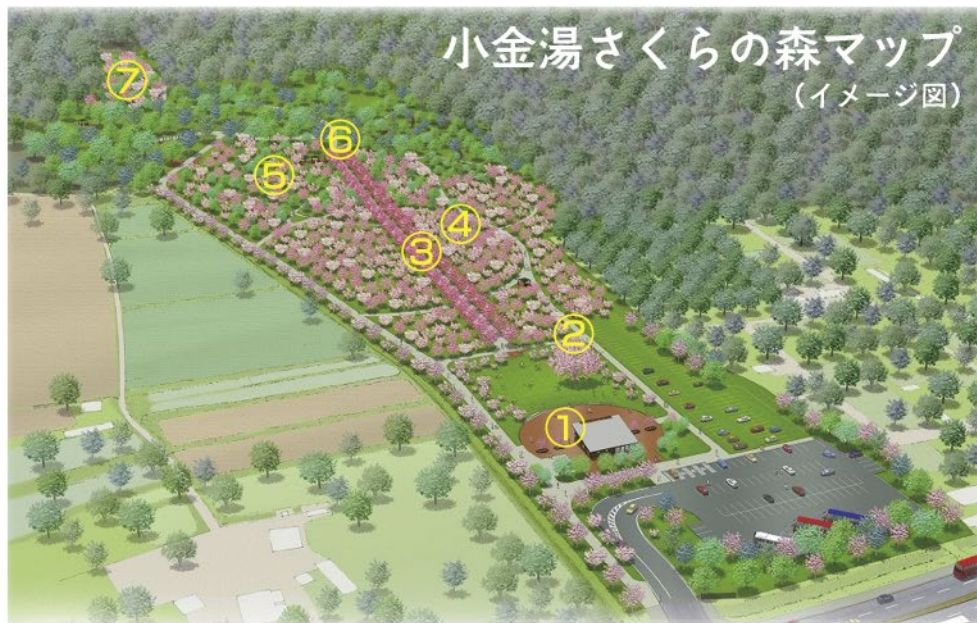
平成十一年札幌市の提案である「仮称こがねゆがーデンパーク基本構想」、平成十七年度沿線協と札幌市による三回のワークショップ等々。以来、平成十九年、札幌商工会議所による「札幌市の桜の名所づくりについての要望書」が提出され、真に「札幌市」「札幌商工会議所」「沿線協」三者によるトライアングルの誕生でありました。平成二十、二十一さらに跡地利用の検討会議をもって平成二十二年、正式名称も「小金湯さくらの森」に正式決定しました。

平成二十三年度より平成二十六年までの間、造成工事、シンボルツリー記念植樹、大がかりな園内の植樹も行われました。特に平成二十四年九月二十一日には沿線協、小金湯町内の皆さま、参加者が見守る中、札幌市上田前市長様、札幌商工会議所高向会頭様、札幌市議会三上前議長様を交えて植樹。平成二十六年九月二十日には、三百六人が参加して市民植樹祭が盛大に行われました。参加したのは、平成二十三年より二十六年までの間、寄付してくれた人、地元町内会、商工会議所の皆様方で、多くの種類の桜が植えられたのであります。

当初より小金湯地区を核とするさくらの森、札幌市アイヌ文化交流センター、小金湯温泉そして定山溪温泉を一つのゾーンと考え、観光への展開や地域の交流、農業への促進等々まだまだたくさん課題があります。札幌市、札幌商工会議所様のご指導のもと地域として新たな「検討会議」を設置し前進して参りたいと思っております。

是非、この冊子を過去から現在そして未来につながる歴史を通じて将来像に向けた記録として保存していただき、多くの地域住民、札幌市民、そして北海道道民の許へ羽ばたくことを祈念し、感謝と御礼に代えさせていただきます。ありがとうございます。





ビジターセンター(管理事務所)



公園入り口の園名板



休憩施設



ピクニック広場

- ① ビジターセンター(管理事務所)・つどいの広場
- ② シンボルツリー
- ③ 桜のトンネル
- ④ 桜の森
- ⑤ 桜と紅葉の森
- ⑥ さくらの鐘
- ⑦ 展望台



小金湯さくらの森開園までのあゆみ

農業センター移転が契機に

「小金湯さくらの森」誕生の物語は、今から二十年前ほど前にさかのぼります。

平成七年（一九九五）に札幌市農業センターが閉鎖され、東区丘珠のサッポロさとらんどに移転したのが始まりでした。

札幌市農業センターは昭和三十九年（一九六四）に、都市農業に即応した野菜、花卉（き）の栽培技術の試験、普及活動などを目的として開設され、札幌市の農業の技術拠点となっていました。

まず、札幌市の関係部局などで、跡地をどのように活用していくかの検討が始まりました。平成十一年度に「（仮称）こがねゆがーデンパーク彩の丘基本構想」が取りまとめられ、平成十四年度、十五年度には環境調査も行われました。

平成十七年（二〇〇五）には、地域からアイディアを出し合う場として定山溪沿線町内会連絡協議会と札幌市との共同で「小金湯農業センター跡地について考える会」（跡地活用ワークショップ）が、翌十八年にわたり、計三回開かれました。また、地域からは、市民や観光客が気軽に立ち寄れる緑豊かな公園

町の二十間道路の桜並木などが全国的に有名です。札幌市内でも北海道神宮や円山公園の桜などが知られていますが、札幌市民が楽しめることはもとより、桜の植栽を市民の手を通して行うという形で、市民や企業の活動を推進させる場所としていきたいというものでした。

長年にわたり桜への強い思いを抱いていた札幌商工会議所の中田輝夫政策委員長を中心に「桜の杜構想」札幌市内における新たな桜の名所づくり」が提唱され、平成十七年（二〇〇五）に札幌市との懇談会、十八年に定山溪沿線町内会連絡協議会との意見交換会が持たれました。

平成十九年（二〇〇七）に札幌商工会議所が「札幌市の桜の名所づくりについての要望書」を札幌市に提出し、歯車が回り出したのでした。

平成二十年（二〇〇八）には、札幌市の「（仮称）小金湯公園基本計画」の策定も始まりました。さらに、同年十月九日の第一回跡地活用検討会議を皮切りに第二回（平成二十年十一月九日）、

第三回（同年十二月四日）、第四回（平成二十一年二月十七日）、第五回（同年九月七日）と計五回の検討会が開かれました。二十一年一月二十九日には、地元町内会との意見交換会も行われました。

園を望む声が寄せられました。



二美桜の枝から接ぎ木した苗木。木箱で囲われ、大切に育てられた

札幌商工会議所が桜の杜構想

一方、札幌商工会議所では、本格的な桜の名所づくりのアイディアを温めていました。北海道の桜の名所としては松前公園、函館五稜郭公園、新ひだか



小金湯さくらの森が新たな交流の場となることを期待して植樹する札幌市・上田市長、札幌市議会・三上議長、定山溪沿線町内会連絡協議会・福士会長、札幌商工会議所・高向会頭（左から）
平成二十四年九月二十一日

三者で役割を分担し

「(仮称)小金湯憩いの森緑地基本計画」と名称が変わった基本計画は

①自然との調和

②地域、企業、札幌市の協働

③地域の特性を生かす

―をコンセプトとして、公園づくりが推進されることになりました。それぞれの役割分担も次第に浮き彫りにされていきました。それは、地域にあつては、桜の植樹、桜の森を育てる、イベントの企画と実施、札幌商工会議所は桜の苗木の提供、桜の植樹、育樹活動、札幌市においては、植樹に必要な調査、基盤整備、管理を担う―というものでした。

札幌市の事業化に向けても、ふるさと雇用再生特別対策推進事業補助金交付要綱に基づく森づくりと「小金湯ブランド」創出による地域活性化事業委託業務として位置づけられ、実現へのメドが立ちました。

勉強会でアイデア出し合

このような中で、平成二十一年(二〇〇九)に基本設計に着手され、にぎわいのある小金湯の森をつくっていくための、「(仮称)小金湯憩いの森緑地利活用勉強会」の第一回会合が、十月三十一日に開かれました。地域の人々が参加しての、この勉強会では、市の担当者からこれまでの経過や今後のスケジュー

会員企業や市民に呼び掛け、二十六年(二〇一四)三月までに二二八一万三三八一円の浄財が集まりました。

造成工事も基盤造成から植栽、園路の造成に進んでいました。平成二十四年九月二十一日に、シンボルツリーの植樹式、記念植樹が行われました。シンボルツリーとしては樹木医らから意見を聞き、道内での生育状況がよいエゾヤマザクラを選択。植樹式の催しには札幌商工会議所を始め、定山溪沿線町内会連絡協議会、小金湯町内会などから約七十人が参加しました。参加者が見守る中、札幌市・上田市長、札幌商工会議所・高向会頭、定山溪沿線町内会連絡協議会・福士会長、札幌市議会・三上議長によりシンボルツリーの植樹式が行われました。その後の記念植樹では、エゾヤマザクラ五十九本、ヤマモミジやアカエゾマツなど合計百本の植樹が行われました。

二美桜の接ぎ木苗を植樹

平成二十五年(二〇一三)には五万円以上の寄付者へ感謝状贈呈式(六月十三日)が行われました。

また札幌商工会議所の募金協力が六月に解散され、札幌市の「さぼりとほっと基金」内に、冠基金として設置され、苗木の購入などに当てられることになりました。

小金湯さくらの森については、計画段階から観光

ルなどの説明を受けるとともに、参加者全員で六種類の桜を各四本ずつ計二十四本を、計画地で植栽しました。第二回勉強会は年が明けて二十二年一月三十日に開かれました。三つのグループに分かれ、桜の名所づくりに向けての管理や四季を通じての活動についてのアイデアを出し合いました。勉強会の最終回となる第三回は九月四日に開かれ、これまでの勉強会のまとめを踏まえ、実現可能な取り組みにはどのようなものがあるのか、新しい組織の立ち上げによる体制づくり―などについて意見交換が行われました。

また、同じく二十二年に、正式名称「小金湯さくらの森」が正式決定しました。所在地名を入れ、ひらがな表記を用いて、やわらかい表現にしました。同年十月二十九日には施設内容についての住民説明会が開かれました。

造成工事、募金活動が始まる

平成二十三年(二〇一一)からは、いよいよ造成工事が始まりました。

札幌市と札幌商工会議所が連携についての協定書を締結し、札幌商工会議所は、小金湯さくらの森の具体化への強力なサポートとして、資金集めを始めることになりました。社会貢献推進特別委員会(高荷明委員長)のもとに募金協力が同年十二月から、



豊滝小学校の児童らが植樹
(平成25年9月11日)

への展開や地域の交流を目的としたイベント開催についての要望が強かったことから、公園管理者と話し合いを行う地域組織が存在することが望ましいと考えられていました。そのため、各町内会連合会、定山溪観光協会、定山溪旅館組合、札幌商工会議所のメンバーらによる利活用検討会が始まりました。検討会では、三回(①平成二十五年七月二十二日、②平成二十五年十月二十三日、③平成二十六年二月二十二日)にわたって意見を交換するとともに、二美桜の接ぎ木苗の植樹が行われました。



豊滝小の総合学習の中でも

次代を担う子供たちの間にも、間もなく開園を迎えようとする「さくらの森」からの息吹が届き始めました。札幌市立豊滝小学校では、三、四年生の総合学習で取り上げられました。日本人と桜について調べたり、ゲストティーチャーを迎えて郷土史の勉強をしたり、季節ごとに二美桜を観察したりしました。一年間の成果を保護者や地域の人たちに発表しました。一年間にわたる学習を通して、桜を大事にしていきたい、という気持ちが強く芽生えていったのでした。

待望のさくらの森オープン

平成二十六年（二〇一四）九月二十日には、三百六人が参加して市民植樹祭が行われました。参加したのは寄付者、地元町内会、札幌商工会議所の人たち。造営後には「桜の森」として楽しめる場所に十種類二六二本の桜を植えました。

また、樹木管理計画が作成されました。二十七年には、札幌商工会議所が公益財団法人日本さくらの会から「さくら功労者」として表彰されました。札幌市との協働により、公園づくりへ向け協定を締結し、募金活動などの取り組みを行い、新たな桜の名所誕生への一歩を記したことが認められたのでした。

小金湯さくらの森略年表

年(西暦)	事項
平成7年 (1995)	札幌市農業センターが閉鎖
平成10年前後 (1998)	定山溪沿線町内会連絡協議会で、札幌市農業センター跡地の有効活用について話し合いが始まる
平成11年 (1999)	(仮)こがねのガーデンパーク彩の丘基本構想が浮上
平成14年 (2002)	札幌市の環境調査が十四、十五年度の二カ年、行われる
平成17年 (2005)	跡地活用ワークショップが、平成十八年にかき三回実施される
平成19年 (2007)	札幌商工会議所が、札幌市に桜の名所づくりの要望書を提出
平成20年 (2008)	(仮)小金湯公園基本計画を策定。また、跡地活用検討会議が、十月九日の第一回を皮切りに、二十一年にかけ、計五回開かれた。「桜の杜構想」を推進する札幌商工会議所も参加する
平成21年 (2009)	基本設計が行われる。町内会との意見交換会がもたれる。第一回緑地利活用勉強会、試験植栽が行われる
平成22年 (2010)	実施設計が行われる。第二、三回緑地利活用勉強会、施設内容についての住民説明会が行われる。「小金湯さくらの森」の公園名が決定
平成23年 (2011)	造成工事が始まる(二十七年まで)。札幌市と札幌商工会議所による連携についての協定書を締結。札幌商工会議所の募金活動が始まる(平成二十三年十二月～二十六年三月まで)
平成24年 (2012)	九月二十一日、シンボルツリー(エゾヤマザクラ)植樹式、記念植樹が行われる
平成25年 (2013)	六月十三日、札幌市役所本庁舎で、百五人が出席し「小金湯さくらの森感謝状贈呈式」を開催。七月、南区民センターで「第一回小金湯さくらの森利活用検討会」を開く。十月に第二回、二十六年二月に第三回開く。
平成26年 (2014)	九月十一日、札幌市立豊滝小学校三、四年の児童と地域の人々が参加して「二美桜」植樹会を開催
平成27年 (2015)	九月二十日「小金湯さくらの森植樹祭」を開催。エゾヤマザクラ、ソメイヨシノ、ナデン、カンザンなど十種類、二百六十二本を植栽。寄付者ら三百六十六人出席。寄付者芳名板基本デザインが決定
平成28年 (2016)	四月十五日、札幌商工会議所が公益財団法人日本さくらの会から「さくら功労者」の表彰を受ける 四月二十九日、開園、オープニングセレモニーを行う

平成二十八年(二〇一六)

四月二十九日、「さくらの鐘」も完成し、喜びの開園の日を迎えました。小金湯さくらの森のオープンは、新しい物語の始まりとなりました。



市民植樹祭には寄付者や地元町内会などから300人を超える参加者があり、華やかに行われた(平成26年9月20日)

標高高い小金湯で観測

◆小金湯アメダス

天気と暮らしは切っても切れない関係にあります。小金湯さくらの森にはアメダス観測所があります。アメダスは、正式には「地域気象観測システム」といい、無人で気象を観測し、電話回線で自動的に観測データを送るシステムの事です。

標高二百四十メートルの小金湯で観測した降水量や積雪の深さの情報を、一時間ごとに更新しています。アメダスで得られた気象データは、災害の防止やレジャー、農業などの産業活動に活用され、生活を支えています。小金湯は、標高十七メートルの札幌市中心部と比べて積雪量が多く、初雪も早い上に桜の開花は遅くなります。小金湯アメダスの観測データは天気予報の枠を超えて全国ニュースとして伝えられることも多いのです。



桜は青春そのもの

聞き手・渡部 徹

札幌商工会議所創立一〇周年記念特別委員会委員長
株式会社プロジェクト・フォー取締役会長

中田 輝夫さん

次の世代へリレーしながら

さくらの森が小金湯の地に花を咲かせたのは、中田輝夫さんの情熱に負うところが大きい。

中田さんが北海道にも桜並木を作れないかと考えたのは、今から四十年前、三十代も半ばのころにさかのぼる。「青臭いと言われるかもしれないが、桜というのは日本人の魂だと思ふ」と言う。

桜への熱い思いを語る中田さん



南から北へと北上する桜前線。松前や新ひだか町の桜が取り上げられることもあるが、全国的なニュースとしては弘前あたりまでで、概

して北海道の桜の注目度は低い。「なんとか札幌に名所を」と考えた。

一口に四十年前。中田さんはさらりと口にするが、長い道のりだった。札幌JC（札幌青年会議所）の理事長のころ、豊平川の河川敷を桜並木に、と張り切ったが、場所を所管する役所の壁は高く厚かった。「JCの社会貢献と考えたけれど、なかなかうまくいかなかった」

平成十六年に、札幌商工会議所の政策委員長の要職に就任した。札幌市内の桜といえば、北海道神宮や真駒内公園の桜が知られるが、新たな名所づくりへの取り組みを「桜の杜」構想として打ち出した。予算付けし、研究に取り組んだ。いいことだと言ってくれるが、中田さんの情熱の深度と構想の広がり。にまで理解が及ぶには、まだまだ時間が必要だった。各方面に熱心に説いて回った。日本さくらの会の下部組織として北海道さくらの会ができ、副会長に就任

した。桜の苗木を配った。

当選一期目の上田文雄札幌市長と話をする機会があった。中田さんと上田市長とは大学の先輩・後輩の間柄。桜の杜にふさわしい「いい場所がないか」という問いかけに、上田市長から小金湯の札幌市農業センター跡地の名前が出てきた。

早速、訪れた場所の目の前に広がっていたのは、「申し分のないロケーションだった。八剣山があり、果樹園もあった。ということは植物が育ちますから」と。そして、平成二十年に農業センター跡地利活用委員会への参加を決め、札幌市や定山溪沿線町内会連絡協議会とがつちりとスクラムを組み始める。

「ぼくは言いだしっぺ。実際にやったのは高荷さんだよ」と謙遜するが、社会貢献推進特別委員会の委員長に就任した高荷明さんと車の両輪のように推進していく。募金協力を立ち上げ、さくらの森の資金面に強力な支援態勢を築いていった。

吉野、大阪、東京……。日本各地の桜を見て歩いた。その中で、中田さんは弘前の桜を挙げた。たまたま乗ったタクシートの運転手さんに勧められて見に行ったのだ。「堀の中の杭も木で打っているし、随所に自然を生かそうと言う営みがあった」という。また、市民が一体となって頑張っている姿がそこには、あつた。小金湯さくらの森実現のために、札幌市民を巻き込んでいかなければ、という中田さんの決意が具体

的な姿となつてあらわれていた。「商工会議所は桜を提供させてもらったが、桜守は地元の人に」という。中田さんは「樹木というのは災害を超えて生きのびていく。このたくましさはすごい」と驚嘆し、そして「名所の桜も多くの人々の力があつたからこそ」と、先人たちの歴史と努力の積み重ねを、親子三世代、四世代と伝えることが、大事なことと強調する。

「さくらの森の五百年後を見てみたいね」といたずらっぽく笑った。

中田さんが青春そのものと呼ぶ桜に込めたメッセージの意味を考えていると、「持続する志」という言葉が浮かんできた。



小金湯さくらの森植樹祭で上田市長と植樹する中田さん（左）



小金湯さくらの森進化論



札幌商工会議所・小金湯さくらの森募金協力会実行委員長
第一建興江島株式会社代表取締役会長

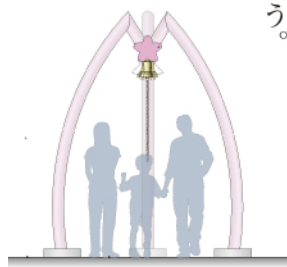
高 荷 明さん

国立京都迎賓館、完成した翌年の平成十八年四月に視察、正に近代芸術の館、と興奮の連続であった。しかし『真の庭』『行の庭』『草の庭』を楽しませて頂きながら、何故か喜びの絶頂に達しえないもどかしさを心の片隅に感じていた。が、その答えは後日再訪の折に気づかされた。京都の庭園や公園の造成は、木の成長や苔の繁茂具合等の経年変化を折り込んでいるのだと。その変化を楽しみに、又行きたいと思わせる事が、観光都市京都の真髄なのだ。生き物が環境の変化に適応して生き長らえている様に、公園も“進化”するべきなのだ。ドイツニーランドやUSJが毎年進化を繰り返しているように。

観光客の多くは、温泉と美味しい食べ物、そして春は『さくら』秋は『紅葉』を求めている。小金湯はその他に、アイヌ文化があり、カイギュウやヒゲク

ジラの化石も出土している。札幌の奥座敷『定山溪』と応接間『小金湯』との協業化で世界の観光客にアピールする魅力は十二分にある。後はこの『さくらの森』をどれだけ進化させる事が出来るかにかかっている。

桜は一人前の花を咲かせるまでに凡そ二十年はかかる。健康な状態で育てる為にはかなりの間伐が必要だ。結果、八百余本植えたのに四百〜五百本の森になってしまおうだろう。隣接農地を買い上げて『千本さくらの森』へ進化させる事が、観光都市札幌成功の力ぎだろう。共に進化しよう。



さくらの森を楽しむ

開花時期を考え植栽を工夫

一九五万都市札幌で、札幌駅から車で四十〜五十分も走ると緑豊かな自然に恵まれた小金湯に着きます。古くは黄金湯といわれ、昭和三十七年に小金湯になりました。四方を山々に囲まれ、清流豊平川が流れる風光明媚な温泉地として親しまれ、また、果樹栽培が盛んな農業地区でもあります。

交通面では国道二三〇号線が地区を貫いて走り、道央と道南を結ぶ幹線となっています。

小金湯さくらの森は札幌市南区小金湯六〇四番地に位置し、総面積は一・二二ヘクタールあります。以前は札幌市農業センターであった場所に、十一種約八百本の桜が植栽されました。

平成二十四年九月にはシンボルツリーのエゾヤマザクラや、ヤマモミジ、カツラ、アカエゾマツなど、合計百本の記念植樹が行われました。

その後平成二十五年、二十六年と順次植栽が行われましたが、植栽に際しては、さくらの森全体としての工夫が凝（こ）らされています。

地形からみると、さくらの森は国道側から山側へゆるやかな傾斜で上っていますが、桜も国道側から山

側へと順次開花していくように、開花時期を考慮して樹種を選定しています。

国道側にあるピクニック広場のチシマザクラから開花が始まり、その次にソメイヨシノ、エゾヤマザクラ、そして遅咲きのサトザクラ系品種のカンザン、フゲンゾウなどが開花を迎える見込みです。

工夫は桜の開花時期だけではなくありません。座った目線でも花を楽しむことができるように、樹高が低いチシマザクラを国道側に植栽しています。

近い将来、桜の雲海に

さくらの森には、桜ばかりでなく、紅葉の美しいヤマモミジやイタヤカエデ、ナナカマドなどの樹木も植栽されています。人工的なさくらの森と山側の自然林が相まって、春の桜から秋の紅葉まで多彩な美を堪能できる場所としての特性を備えています。

シンボルツリーを中心としたピクニック広場、つどいの広場、エゾヤマザクラの桜のトンネル、桜と紅葉の森、さくらの鐘などが訪れる人たちをもてなします。

今は幼木の桜も、年々成長していきます。近い将来、

公園内の桜



エゾヤマザクラ



チシマザクラ



ソメイヨシノ



クナシリヨウコウ



アマノガワ



ナデン



カンザン



イトククリ



ウコン



ギョイコウ



フゲンゾウ

展望台から成長したさくらの雲海を眺めるのも夢ではないでしょう。

手間ひまかかる管理

日本の春は桜で始まるといっても過言ではないでしょう。日本人は昔から桜に親しみ、花見をして楽しみ、花に心を動かされ、日本の花として愛着を持って暮らしてきました。

日本の桜は二百種類以上、三百とも四百ともいわれています。病気や害虫に弱く育てるのに手間ひまがかかる木です。ウソという鳥は桜の花の芽が好きで、芽を食い荒らしてしまい、花が咲かなくなることもあります。

「桜はゆっくり成長します」というのは、指定管理者・藻南公園管理事務所の鎌田司所長。直径30センチには五十年かかるといいます。

植栽された幼木が成長する途中で間伐も行わなければなりません。

人による踏圧も要警戒です。根が下に伸びられなくなるため、クッション材を置いたりすることもあ

るそうです。鎌田所長は「枯らすわけにはいきません。さくらの森はこれからの管理が大切」と気を引き締めています。

満開だけではない桜の魅力

桜の花の寿命は短く、咲き始めたと思ってもあっという間に散ってしまいます。花が散っても葉桜として若葉が繁り、みどり一色になります。

秋になると葉が紅葉し、雪の間は冬芽となって春を待ちます。桜は満開の時だけでなく四季折々に姿を変えて風景に溶け込み、樹木としての美しさを見せてくれます。

開花カレンダー

4月 下旬	5月 月上旬	中旬	下旬
	チシマザクラ、クナシリヨウコウ		
	エゾヤマザクラ、ソメイヨシノ ナデン		
		カンザン、フゲンゾウ、イトククリ アマノガワ、ウコン、ギョイコウ	
		ジュンベリー、ユキヤナギ、シバザクラ	

※市内中心部よりも2~3週間遅い開花となります

小金湯の魅力、広がる将来への夢

さくらの森をエリアとして楽しむ

小金湯さくらの森に立ち、周囲の緑のパノラマを見渡してみる。

山々の連なりの中、特異な岩肌を連ねる八剣山が視界に飛び込んでくる。標高五〇四メートル、三分ほどで登頂することができる。

剣竜の背のように見える。国土地理院の地図に表記された正式名称は観音岩山で、かつて五剣山と言われていたこともあったという。

この山のふもとに広がるのが砥山地区で、果樹園、畑作農家のほかに、パークゴルフ場やワイナリー、パン工房、乗馬クラブなどもあつて、地元ばかりでなく札幌市内の各所からファンを呼び寄せている。

小金湯温泉、簾舞、豊滝…、さらには定山溪温泉を含めて、新たな発想での観光資源の発掘・構築が期待されている。さくらの森の誕生は、間違いなく、その契機となるに違いない。定山溪沿線町内会連絡協議会の富士昭夫会長は「道路情報館とのコラボレーションで農産物の即売会をやったが、たいへん好評だった。小金湯さくらの森を中核に、小金湯温泉、アイヌ文化センターなども含めて、小金湯さくらの森

を練っている。北海道新幹線の開通も夢を広げられる。

八百二十万年前のカイギュウの化石

一方、時間のフィルムを巻き戻してみると、小金湯地区は、明治二年（一八六九）、蝦夷地が北海道と改名されたとき、石狩国札幌郡に属した。

その後、平岸村、豊平町の字名となり、豊滝三区、昭和四十七年（一九七二）に小金湯となった。

大正七年（一九一八）に運行を始め、昭和四十四年に廃線となった定山溪鉄道の駅に滝の沢駅があり、その桜が、小金湯さくらの森に接ぎ木して移植された二見桜である。

さらに遡り、八百二十万年前には、この場所はカイギュウなどの生息する土地で、化石が小学生によって発見され、話題となった。



春を待つ小金湯さくらの森。冬期間のイベントも期待される



四季の移ろいととも様々姿を見せてくれる八剣山

のオープンでやってくる大勢の人に、このあたり一帯を周っていたただく仕掛けを考えなければ」と構想

冬に体験型イベントで

小金湯ばかりでなく、北海道、北国としてのテーマであるが、通年、特に冬場にどのようなイベントを行うかが大事になってくる。

その試みの中の一つとして、体験型をキーワードに構想を描くのが、簾舞まちづくりセンターの黒岩智久次長だ。「農家にとって、今（真冬）の時期が一番忙しいんですよ」という。積雪があるため、果樹の高いところに届くので剪（せん）定がしやすいというわけだ。農家の作業を知らない人にとっては、意外な話だろう。体験学習のヒントになるかもしれない。「さくらの森の中で動物の足跡を探索したりする。もちろん安全に配慮してですが」と黒岩次長。さらに、樹齢七百年といわれ直径三・二メートルもある桂不動やさくらの森自体をパワースポットとして売り出すことも考えられる。

指定管理者との密接な提携や、ボランティアアゲイドの養成も必要になってくるだろう。子供たちへの教育活動も忘れてはならない。指定管理者の藻南公園管理事務所の鎌田司所長は「観察記録などつけてもらったり、肥料をやったり」ということが考えられるという。

待望のオープンを迎えた「小金湯さくらの森」を機に新たなムーブメントが起ころうとしている。



小金湯さくらの森をいい森、いい場所に



小金湯町内会長 坂本秀一さん

「小金湯の歴史を語る」

郷土小金湯の誕生

ここ小金湯は明治二十三年、北海道農業大学（現在の北大）の第4農場地として熊本県人によって開拓された地域であります。

我が家の古い戸籍謄本には「本籍地・札幌郡平岸村字一の沢熊本開墾地」と明記されてあります。最初に、四人の熊本県人が入植し、徐々に家族や親せき縁者呼び寄せて小金湯の開拓地を広げていったので、向こう三軒両隣り、皆、先祖を熊本とする一族一派で、我が家もその中の一戸です。

開拓者一族のルーツを尋ねると、そこに「なるほど」と思い当る逸話にたどり着きます。時は明治十年、西郷隆盛の率いる一万六千の兵と、熊本城に居城する官軍が開戦しました。西南戦争であります。この時私どもの一族は西郷隆盛の薩摩軍に参戦、共に熊

安全を確かめた後、一族一派を呼び寄せ小金湯は熊本開墾地として徐々に戸数を増やしていったのです。この「罪一等を免ずる」の裏付けとしては、我が家の最古の戸籍謄本に「裁判ニ依り前戸主及び前戸主の続柄共に戸主トナリタル」と戸主を復活した旨の一条が記されています。これは罪一等が許された証

のようで、叔父の話も当たらずとも遠からず、と思われる。

衰退の町に希望の灯が

郷土は開拓以来順調に発展してきました。昭和四十年に開基七十五年のあゆみ、さらに平成三年には開基百年を記念し、小金湯郷土史を作成するなど、郷土愛の深い住民で町を盛り上げてきました。しかし昭和四十七年の百三十二世帯をピークに町の人口は下降。原因はこの年に行われた、市街化調整区域の指定であります。家が建てられないので人口は減る一方です。平成元年には八十世帯に減じ、現在は半分の四十世帯にまで減少しました。

このままでは、町は消滅を余儀なくされると町内会長として苦慮していましたが、「小金湯さくらの森」誕生の話題が持ち上がり、願ってもない好機が来たと、開園を心待ちにしておりました。地元小金湯としては、活力のカンフル剤を注入していただい

本城を攻めたのですが御存じの通り薩摩軍は敗戦し、鹿児島に撤退した西郷隆盛は城山で自決しています。

この時、私達先祖の一族は地元の山の奥に逃げ込み「木こりや炭焼きに身をやつして生き延びていたようだ」と、叔父（父の弟）が話をしてくれたことがあります。その証としては、我が家の仏壇の中に「坂本勘之丞・明治十一年・享年七十七歳」という位牌があり、この年から七十七年遡ると、勘之丞は享和元年（一八〇一）に生まれており、この頃、苗字帯刀を許されたのは士族であったことから叔父の話も満更屑つばではないと思われる。

山に逃げ込んでから十年、新政府の呼びかけで「北海道開拓をすれば罪一等を免ずる」と言うお達しがあつたようだと言います。そこで上村文四郎（五十代）、武永乙松（三十三歳）、中村芳松（三十二歳）、永田清七（四十三歳）＝年令は沿革史による＝の四人が、呼びかけの真意を確かめるために渡道。先ずは

たと喜んでいきます。地域の活性化につなげ、近隣地域と連帯感を持ち、市民の憩いの場所はもとより、地域の観光産業の目玉となるような、さくらの森にしたいものと考えております。

多彩なさくら公園に

桜は五月で終わります。また、桜が見ごろになるまでは、十年、二十年という歳月を要します。中央階段が桜のトンネルになる日を夢見ながら、桜がなくても四季を通じて楽しめる公園、市民が参加のできる公園にならないものか、と考えています。

一つは「さくらの森写真コーナー」を設け、桜の開花過程（蕾→開花）や公園全体の四季の移ろいを写真展示する。もう一つは「俳句ポスト」を設置して、来園者に投句してもらい「俳句コーナー」をつくらせて展示する。記念の落書き帖を置くのもいいだろう。来園の思い出を自由に書いてもらい、最後に「そこの一句」というのも面白いのではないかと。市民が自由に参加できるものが、何かあってもいいのではないだろうか。

花見やイベントをやったときだけでなく、いつでも市民に楽しんでもらえる公園にしたい。そんな夢を描きながら郷土のシンボルとなる「小金湯さくらの森」の構想を練っています。

資料・写真提供、編集協力（敬称略）

- ・札幌市環境局みどりの推進部
- ・札幌市南区市民部
- ・札幌商工会議所
- ・藻南公園管理事務所

参考資料

- ・「さくら百科」（永田洋他編、丸善）
- ・科学のアルバム「サクラの一生」（守矢登、あかね書房）
- ・「日本の桜」（写真・奥田実、山と溪谷社）
- ・「小金湯開基百年記念史 小金湯のあゆみ」（小金湯開基百年記念協賛会）
- ・「郷土誌 みすまい」（簾舞開基百年記念事業実行委員会）

後書き

「小金湯さくらの森」の開園までのいきさつをまとめるにあたり、多くの方々のご協力をいただきました。ご芳名はあげませんが、この場を借りて厚く御礼申し上げます。取材ノートも5冊になりました。貴重な興味深い話を聞くことができました。それらは、私の大切な財産になりました。

ふと記憶がよみがえります。私が住んでいる藤野から小金湯温泉まで歩いて1時間強。数年前、温泉に入るため歩いたことがよくありました。八剣山を右手に、周囲の風景に浸っていると、山あり川あり道あり、自分がその中に融け込んでいくような思いがしました。汗ばんだ体を温泉の湯で流し、帰りはバスで帰ってきます。しばらく途絶えていた習慣を、復活させてみようと思っています。さくらの森という、大きな新しい楽しみが増えたのですから。(W)

「桜と遊ぶ、桜に学ぶ 小金湯さくらの森～開園までの歩み」

平成28年4月発行

編集・発行 定山渓沿線町内会連絡協議会（石山まちづくりセンター内 ☎011-591-8734）

印刷 日光広告

許可なく複製・転載することを禁じます

小金湯さくらの森ガイド

所在地	札幌市南区小金湯604-2
総面積	12.2ヘクタール（入園可能区域は約6ヘクタール）
開園期間	4月下旬～11月下旬（12月～3月は冬季閉園）
開園時間	8:00～18:00（4～8月） 8:00～17:00（9月） 8:00～16:30（10月） 9:00～16:00（11月）
公共交通機関	じょうてつバス「小金湯」下車 停留所から徒歩約5分
駐車場	普通車80台 大型バス10台（無料） *閉園時は、公園出入口と管理事務所を施錠いたします。 *公園内では、火気の使用や動植物の採取はできません。
お問い合わせ先	開花情報や利用時間などに関して 藻南公園管理事務所 011-578-3361



入退場時のご注意

- ・公園出入口は、国道と市道の交差点部分に位置しますが、退場の信号機がありません。
- ・お帰りの際は、周辺の交通状況に十分ご注意ください。
- ・混雑時には、入退場に時間がかかる場合がありますので、ご注意ください。

絵本と紙芝居『こうたと桜の森』が完成



定山渓沿線町内会連絡協議会では、小金湯さくらの森を舞台にした絵本と紙芝居『こうたと桜の森』を製作しました。地域や札幌商工会議所、札幌市などたくさんの方たちの思いがひとつになり、「小金湯さくらの森」が開園しました。

820万年前の小金湯は、カイギュウが泳ぐ海でした。太古のロマンから未来へと思いを巡らし、大人から子どもへ、桜守の手によって豊かな森に成長し、愛される森になっていく夢がこめられています。

4月29日の開園当日、札幌市アイヌ文化交流センターでお披露目されました。絵本と紙芝居は今後、地域での催しや、学校での郷土の授業、児童会館での読み聞かせなど多方面に活用される予定です。

文・しげまつみさ（児童文学作家）

絵・さとうまさと（イラストレーター）